

飛龍の滝

飛龍とは、日本語で「飛ぶ龍」を意味します。少しばかり想像力を働かせて緑深い森の中に佇むこの二段の滝を眺めてみれば、その神秘的な名にふさわしいものに思えてくるでしょう。15メートルの高さから流れ落ちる水の流れが岩間の水溜りを打ち、さらに25メートル流れ落ちて、丘の下方の深い緑の中へと消えていきます。史料によれば、鎌倉時代（1185年-1333年）にはすでに、仏僧が修験の地として飛龍の滝を利用し始めており、非常に重要な地としての地位を確立していました。滝の直下に立ち、冷水を身体に受けることで、魂の浄化が得られるとされていたのです。今日でも、畑宿からの山道を45分、または芦之湯エリアからの下り道を30分と、滝へ辿り着くには少しばかり歩く必要があります。いずれのルートにも分かりやすい標識が立てられていますが、舗装はされておらず、路面が湿って滑ることもしばしばあります。